

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3870102690
事業所名	グループホーム 優寿の里
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏 名	堀 美恵
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 31 日

【事業所理念】 ・生活の質の向上 ・共に生きる姿勢 ・信頼関係の確立	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・個人記録にご本人の発した言葉など、記録内容の充実 ・介護接遇研修の実施	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 河川の近くにある事業所は、周辺には工場や住宅地が建ち並んでいる。代表者や管理者は、「自分の親が入所して良かった」と思える事業所となるよう職員に伝え、利用者に配慮した対応が取れるよう指導している。現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に事業所周辺を散歩したり、季節に応じて、ドライブをして車中からコスモス畑を見たり、外気浴をするなど、利用者が気分転換ができるよう努めている。また、年2回職員は高齢者虐待防止セルフチェックシートを活用したアンケートを実施し、取りまとめで職員間で話し合い、より良いサービス提供に努めている。さらに、ほぼ毎日代表者は来訪し、日々利用者や職員と対話をしていることもあり、職員も話しやすく、プライベートな相談にも応じるなど、職員との信頼関係が築かれている。希望休や有給休暇の取得を勧めたり、コロナ禍以前は職員との懇親会を取り入れたり、利用者や職員にケーキなどの差し入れを頻繁にするなど、働きやすい職場づくりに努め、長期に働く職員も多い。ほとんど超過勤務をすることなく、職員はそれぞれの勤務時間の定時に帰宅することができている。加えて、法人・事業所として、地域にある障がい者や高齢者施設等と、「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、相互の避難体制を確保するなど、連携を深めることができている。
---	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ご家族様からの情報や、ご本人とのコミュニケーションを出来るだけ多く交わし、日常記録に残して職員間で共有して把握に努めている。	◎		◎	入居時に、事業所では利用者や家族から、思いや意向などの聞き取りを行っている。以前利用していた施設や病院からサマリーなどの情報提供を受けることもあるが、実際の情報と異なる場合も多いことから、日々の生活の中で、利用者から思いや希望等の新たな情報を聞くこともあり、管理日誌等に記載して職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ご家族様からの聞き取りや、ご本人のお元気だった頃の日々の言動などの情報から本人本位の視点で検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご面会やお電話の機会を利用して話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常記録、連絡帳、経過記録、サービス担当者会議録、モニタリング会議録などを利用している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人を多角的に分析、把握し、思いを見落とさないように留意している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご入居時の聞き取りや、ご面会時に出来るだけ詳しくお聴きしている。			◎	入居時に、事業所ではアセスメントシートを活用して、生活歴等を聞き、記録に残している。また、介護支援専門員から情報を聞くこともある。さらに、日々の生活の中で、職員は利用者の様子を観察したり、会話の中から情報を聞いたり、家族から電話連絡時や面会時に情報を聞くなど、新たな情報を把握している。1階ユニットでは、認知症の利用者の理解を深めるために、「パーソン・セントダード・ケア」にも取り組んでいる。新たに把握した情報は、管理日誌やアセスメントシートに記載するほか、介護計画の更新時に合わせて、シートの記載情報も更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常支援の中で注意深く、細かく、観察、記録、共有して現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	よく把握できているが、想定外のことが起こることもある。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	多角的に観察・分析し把握に努めている。 (「パーソン・セントダード・ケア」を実践している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個別の日課表、日常記録を共有して把握している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	サービス担当者会議、モニタリング会議、ケース会議で検討している。				○ 事業所では、ユニット毎に月1回職員会議を開催するとともに、利用者の状況に応じて、ケース会議を実施し、課題解決に努めている。現在のコロナ禍において、家族や外部の関係者はサービス担当者会議に参加できないため、郵送等で家族から意見を聞いたり、医師や薬剤師などの関係者から指示やアドバイスをもらいながら、職員間で話し合い、利用者の視点に立って、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	介護理念や基本方針に立ち戻って、検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	課題を明らかにしている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	常にご本人の意向を確認したり、本人主体に考察、検討して計画を立案している。				アセスメントシート等の情報をもとに、利用者や家族の意見のほか、医師や看護師、薬剤師等の指示やアドバイスを取り入れ、職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、月2回薬の配達のほか、運営推進会議にも薬剤師が参加していることもあり、薬の副作用などの情報も詳しく、利用者の様子もよく把握しているため、日常的に相談やアドバイスをもらうことも多い。さらに、介護計画は、利用者や家族の意向を反映するとともに、表しにくい思いにも寄り添えるようなサービス内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	可能な限り反映して作成している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度化される以前のご様子やご家族様からの情報を大切にして、表に出来ない思いに寄り添うように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ禍のため、精神的な支えにはなっていないが、直接的なご協力は控えていただいている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	内容を把握・理解・共有できるように工夫している。			◎	月1回実施するモニタリング会議の中で、利用者の現状を確認するとともに、職員は介護計画の内容を把握している。また、生活援助計画(ケアプラン)を1つの綴りにまとめて保管し、職員に確認しやすくとともに、計画作成時には一人ひとりの計画の確認後に職員がサインを残すことができている。さらに、介護計画のサービス実施内容が分かりやすいよう、個人記録に24時間の利用者の状況のほか、発した言葉や様子、気づきなどが記録されている。加えて、代表者は介護記録の重要性を理解しているが、記載事項が多く、職員の負担軽減や最低限必要とする記録を考え、今後ICT化などを検討している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個別に記録し、1回/月モニタリング会議で確認、調整して、日々の支援に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別に記録している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個別に記録している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3カ月おきに、見直している。			◎	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。毎月職員会議の中で、モニタリング会議を開催し、利用者の状態の確認を実施し、「できている・できていない」などの評価をするとともに、コメントを残している。また、モニタリング会議において状態の変化が見られた場合や介護計画の更新時には、アセスメントシートの情報を更新している。また、大きな変化が見られた場合には、現状に即した介護計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1回/月モニタリング会議で現状確認を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	現状に即した追加や変更を随時行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	必要に応じてサービス担当者会議やケース会議を開催している。			○	事業所では、ユニット毎に月1回職員会議を開催するほか、利用者の状況に応じて、その都度ケース会議を実施し、課題解決に努めている。また、職員会議は、月末の午後の時間帯に1時間程度実施している。さらに、代表者や管理者は、日頃から職員が意見を出しやすい環境づくりに努めており、会議を合わせて職員から多くの意見が出されている。加えて、参加できなかった職員には、後日会議録を確認してサインをもらうほか、重要事項は口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	日頃から意見の出しやすい職場環境づくりに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	事前に開催日を伝え、当日出席できない職員には事前に意見を聞いている。シフトや休憩の取り方なども工夫して開催している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録、連絡帳、口頭説明などで伝えている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	会議録、連絡帳、日常記録、日誌、回覧板、口頭説明などで共有している。			◎	朝・夕に申し送りをするほか、日々の管理日誌にもその日の出来事やユニットの全利用者の申し送り事項等を記載することができている。また、緊急の重要事項は、正確な伝言をしている。さらに、出勤時には管理日誌を職員は必ず確認するとともに、確認後にはサインを行い、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	会議録、連絡帳、日常記録、日誌、回覧板、口頭説明などで共有している。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	コミュニケーションの機会を多く作って把握し、支援している。				事業所では、利用者の意見や意向を尊重するとともに、出された要望に柔軟に対応するなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。職員は声をかけをして、着る服を二者択一で選んでもらったり、温かい・冷たい飲み物にするか聞いたりするなど、可能な範囲で利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、1階ユニットは比較的若く、元気な利用者が多いこともあり、日々会話に盛り上がり、明るく楽しい生活が送れている。2階ユニットでは、高齢化や重度化が進行しているものの、代表者や管理者、職員は利用者との声かけなどのコミュニケーションに努めるとともに、マスクをはずして笑いを誘うなど、その一瞬も大切にしたい支援に取り組み、笑いや生き生きとした表情を見ることができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	大切な支援として取り組んでいる。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人主体を心がけて工夫して支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人主体を心がけ、ゆとり残存能力を引き出すように工夫して支援している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	大切な支援として日々取り組んでいる。毎日、明るい会話や笑いに満ちている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	言葉に出来ない思いも、見落とさないように、細かく、多角的に観察・分析し、本人の意向に添うように支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重したい関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	定期的に、職員主催の勉強会や社内研修資料で学ぶ機会を持ち、継続して意識できるように努めている。	◎	-	◎	月1回実施する勉強会等で、介護接遇研修を実施し、職員は人権や尊厳などを学ぶとともに、常に意識した行動や言動ができるよう努めている。代表者は、「自分の親が入所して良かった」と思える事業所となるよう職員に伝え、配慮した対応が取れるよう指導している。また、職員はやさしく丁寧な対応ができているものの、時には耳の遠い利用者に大きな声を出してしまうこともあるため、代表者等は該当職員を別室に呼んで、確認するとともに注意喚起をしている。さらに、居室の入室時には、職員から声かけやノックを行うとともに、不在時には事前に利用者の了承を得てから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	利用者一人ひとりに敬意を払ったさりげない対応や言葉かけを、個別に工夫して行っている。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	配慮している。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	配慮している。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解し、遵守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	個別に残存能力を把握し、活躍の場を提供して互いに褒めたり、感謝し合う関係性となっている。				洗濯物たたみを手伝ったり、洗濯物を各居室に運んだりするなど、利用者同士で助け合い、感謝の言葉を伝えている。また、よく会話をする利用者が、安易なことから言い合いになったり、認知症の進行で何度も同じ言葉を繰り返して言う利用者に、他の利用者が、「さっきも言ったのに」などと言ったりすることもあるが、席替えや職員が利用者の間に入るなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が互いに尊重し合い、助け合って生活が出来るように職員が間に入って支援している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	職員が、利用者一人ひとりの性格や人間性、残存能力、認知度、好きなこと、嫌いなことなど、細かく把握した上で、利用者の間に入って支援し、互いに認め合って、支え合って、家族のような生活が出来ている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員や利用者同士の相性を考慮し、適切なかかわり方を工夫して、良好な関係性を築けるようにしている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	把握して、関係性を継続できるように支援している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	把握して、関係性を継続できるように支援している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	コロナ禍で、一部制限しながらも、感染のリスク回避の対策を講じながら支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	コロナ禍で、一部制限しながらも、感染のリスク回避の対策を講じながら支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	外気浴、散歩は日課として取り組み、外出支援はご本人の希望や必要性に応じて、コロナの感染リスクに配慮しながら実施している。	○	－	◎	現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に事業所周辺を散歩したり、季節に応じて、ドライブをして車中からコスモス畑を見たり、外気浴をするなど、利用者が気分転換ができるよう努めている。また、車いすを使用している利用者も一緒に、外気浴や散歩をすることができている。コロナ禍以前は、今治イオンモールや道の駅「風和里」に出かけて買い物をしたり、外出をして弁当を食べたり、散歩をするなど、時間があれば外出することができていた。さらに、外出が減少しているものの、事業所内で夏祭り風に屋台を取り入れたり、焼きそばやたこ焼きパーティーをしたりするなど、利用者が楽しめるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍中は、感染リスクに配慮しながら慎重に支援している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	外気浴、車椅子散歩は、気候や天候、ご本人の体調に配慮しながら支援している。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ禍中は、感染リスクに配慮しながら慎重に支援している。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会や社内研修資料、定期購読のおはよう21などで、認知症について学ぶ機会を持ち、常に「パーソン・センタード・ケア」を心がけながら、適切なケアを提供している。				毎日のラジオ体操や歩行訓練、足踏みをするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。また、1階ユニットでは、認知症の理解をする「パーソン・センタード・ケア」を取り入れたり、洗濯物たたみなどの生活リハビリも努めている。また、利用者のできることやできそうなことは、見守りや待つ介護に努め、スプーンを持って食べる姿が見られるなど、新たに利用者ができることを発見したこともある。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	勉強会や社内研修資料、定期購読のおはよう21などで、学ぶ機会を持ち、個別に無理のないリハビリメニューを作成し、心身機能の維持向上に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	余裕を持った人員配置で、ゆっくりと残存能力を発揮していただけるようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	把握して、楽しみや役割、活躍の場面を支援している。				利用者と一緒に季節の貼り絵をしたり、新聞でごみ箱を折ってもらうなど、利用者の役割や出番づくりができるよう努めている。また、職員が横について見守りながら、洋裁を楽しむ利用者もいる。さらに、利用者と一緒に図書館に本を借りに行ったり、地域のバザーに出かけたりするなど、張り合いや楽しみが持てるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	障害のレベルがすすんでも、得意なこと、出来ることを大切にして、職員が間に入ってかわり方を工夫しながら、日常的に取り組んでいる。	○	－	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	コロナ禍のため、積極的な地域交流は控えているが、散歩やドライブで地域の方と挨拶を交わしたり、地域資源を活用したりしている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	毎朝身だしなみを整え、毎週日曜日には爪切りや耳掃除を支援している。 着替えや髪型は本人に確認しながら支援している。				起床時に、自分で服を選ぶとともに、ドレッサーの前に座り髪型を整えて、リップクリームを付けるなどのおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。また、自分で髭剃りをしている利用者もいる。さらに、食べこぼしや整容の乱れが見られた場合には、食事用のエプロンを着用したり、さりげないフォローをしたりしている。加えて、重度な利用者にも、毎朝のパジャマからの着替えを支援するほか、家族と相談しながら身だしなみを整えるとともに、清潔感のある配慮をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人とコミュニケーションを取り、個別に好みを把握して、個性を尊重して整えている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	コミュニケーションを取りながら本人の思いを探り、気持ちに寄り添うように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その都度、工夫して支援し、記念写真を撮って、振り返って楽しめるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	身だしなみの乱れには常に気を配って、さりげなく支援している。	◎	—	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	本人の希望を確認して支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度化された方は特に、清潔に心地よく過ごせるように配慮している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	勉強会や社内研修、おはよう21などで学ぶ機会を作り、理解しているが、一部の新入職員はさらに理解を深める必要がある。				各ユニットで食事は異なっており、1階ユニットでは人材確保が難しいため、昼食と夕食は宅配弁当を利用し、職員が朝食を料理するほか、昼食時と夕食時の炊飯と汁物を用意している。月1回、宅配弁当を止めて、利用者の食べたいメニューを取り入れ、料理することができている。2階ユニットでは、業者に食材を配達してもらい、その日の冷蔵庫にある食材を見て、利用者に食べたいメニューを聞きながら、職員が献立を決めている。献立は、同じような物に偏らないよう、バランスの取れたメニューになるよう努めている。昼食は調理が得意な職員を中心に調理しており、利用者の好評を得ている。誕生日や行事食の場合には、利用者の食べたいメニューを聞き、ちらし寿司やうどんなどを提供することが多い。高齢や重度の利用者も多く、手伝うことは減っているものの、テーブル上で食器を集めたり、届く範囲でのテーブル拭きを手伝ってもらうなど、できることをしてもらえよう取り組んでいる。利用者毎の食事形態に合わせて、刻み食などの対応をすることができている。1階ユニットでは、食事の時には主に職員は利用者の見守りやサポートを行い、時間をずらして食事を摂っている。2階ユニットでは、昼食時に職員も利用者と同じ物を食べているものの、介助が必要な利用者も多く、職員は時間をずらして食事を摂っている。また、おやつは、おはぎやバナナカステラなどの懐かしいものを提供することも多い。重度な利用者も、リビングで調理の音や匂いを感じることができている。さらに、偏りのない食事などを職員間で話し合ったり、体重の増減や健康診断の結果などを医師に相談しながら、糖質や食事量などのアドバイスをもらったりすることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	昼、夕食は宅配弁当を利用しているが、朝食や誕生日、季節行事の時は利用者と共に献立を考え、オープンキッチンで個々の能力に合わせて調理や片づけで活躍していただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	昼、夕食は宅配弁当を利用しているが、朝食や、誕生日、季節行事の時は利用者と共に献立やおやつを考え、オープンキッチンで個々の能力に合わせて調理や片づけで活躍していただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	に家族から情報を頂いたり、日々の会話の中で自然と聞き取りをしたり、毎食の残食をチェックしたりして把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	利用者と、楽しい会話を膨らませながら、迷って決められない方には何度もリクエストを確認して献立を決めている。 季節感や昔懐かしい物を取り入れるように努めている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	宅配弁当を利用しているも、個々の好みや状態に合わせた形態や盛り付けを工夫して提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個々の状態に合わせて食べやすいように工夫して食器や道具を変えて提供している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員は利用者の介助と見守りに専念し、食事の能力の把握や事故のないように注意を払っている。 リスクの低いおやつ場面では、会話を楽しみながら一緒に頂いている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度化された方も、体調に合わせて、できるだけ離床して、食事の準備や雰囲気を感じていただくように支援している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	日常記録に個別にチェック欄をも設けて、毎日把握している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	個々の摂取量を毎食把握している。 必要に応じ、工夫して個別支援し、必要量を確保できている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	宅配弁当は、栄養士による栄養バランスの取れたものとなっているが、朝食や行事食も含めて、ホームの栄養士が毎食チェックし、偏ったり、足りない時には改善を提案したり、1品足すなどの配慮をしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的にチェックして管理している。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解して支援している。				事業所では、月1回訪問歯科の往診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらうことができおり、結果はミーティング等を活用して職員間で共有することができている。職員は勉強会の開催や訪問歯科にアドバイスをもらいながら、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、利用者は洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施しており、職員は見守りや声かけを行うほか、必要に応じて介助をしている。また、義歯は週1回洗浄をしている。さらに、異常が見られた場合には、早期の訪問歯科に診療つなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	連携歯科医と協力して把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	連携歯科医の協力を得て勉強会や訪問診療時のアドバイスなどで学び、日常的に支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、本人の能力に合わせて見守り、声かけ、一部介助、全介助支援している。1回/週 入れ歯洗浄剤を使用して手入れをしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後本人の能力に合わせて見守り、声かけ、一部介助、全介助支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	個々の必要性に応じて対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会や社内研修の参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持ち、理解した上で、個別に状態を把握して支援している。				重度の利用者も多く、2階ユニットの利用者は、ほとんどリハビリパンツを使用して過ごしている。1階ユニットの利用者は、むやみに紙おむつなどの排泄用品を使用することのないよう取り組んでいる。夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。個別の排泄チェック表に排泄状況を記録して、職員は排泄リズムを把握し、食事前などに声かけやトイレ誘導をしている。また、介護計画の中に排泄支援を取り入れ、こまめに声かけや誘導をしている利用者もいる。さらに、紙パンツなどの使用時には、利用者毎の担当職員が提案し、適切な排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認して使用をしている。加えて、職員は適度な運動、ヨーグルトや食物繊維の摂取などを取り入れて便秘などの防止に努めるとともに、医師の指示を仰ぎながら、下剤などの服薬をしている利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会や社内研修の参考資料、おはよう21などで学ぶ機会を持ち、理解した上で、個別に状態を把握して支援している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日、個々の排泄チェック表で把握し、個別に適切な支援をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎日、個々の排泄チェック表で把握し、個別にその時の状態に合わせて適切な支援をしている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で、情報を共有して要因や誘因を探り、改善に向けた取り組みを実施し、効果をあげている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々の排泄パターンを把握して定時誘導と、パターン誘導の両面から支援している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人や家族と話し合い、職員の都合でむやみにオムツを使わないように支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の状態に合わせて適切に使い分け、必要に応じて見直ししている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	個々の状態に合わせて工夫して自然排便を促すよう取り組み、良い結果が出ている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	毎日お湯をはり、ご本人の希望や習慣、必要性に合わせて個別に支援している。	◎		○	午前入浴時間を基本として、利用者は週2回入浴することができる。夏場などの汗をかいた場合や汚れた場合には、シャワー浴などの対応もしている。利用者の希望に合わせて、湯船に浸かる時間や温度などにも柔軟に対応し、自分のペースでゆったりと入浴ができるよう支援している。また、入浴を拒否する利用者には、時間をおいて声かけをしたり、トイレのついでに入浴を呼びかけたりするなど、なんとか入浴してもらうことができている。さらに、季節に応じて入浴剤を入れたり、沐浴を取り入れたりするなど、少しでもゆとりと楽しみのある支援をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	毎日お湯をはり、ご本人の希望や習慣に合わせて、ゆっくりと入浴を楽しむことが出来るように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の残存能力を把握した上で、安全・安心に入浴できるように個別支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	本人の気持ちに寄り添いながら、個別に無理なく誘導する工夫をして無理強いすることなく入浴を楽しんでいただいている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝、9時～9時30分頃、本人と会話を交わしながら、バイタルチェックし入浴の可否を見極めている。入浴後は必ず水分を提供し、様子観察をしている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日常記録を共有して把握できている。				事業所では、体操や散歩などの日中の活動量を増やすなど、眠剤等に極力頼らず、利用者が夜間に安眠できるよう努め、ほとんどの利用者は良眠することができている。また、高齢や認知症の進行などにより、一晩中しゃべり続ける利用者もいるが、自分の居室で過ごし他の利用者に迷惑がかからない場合には、利用者の生活リズムで過ごしてもらうことも多い。さらに、20時頃には就寝し、ほとんどの利用者は朝5時頃まで睡眠をとり、早い利用者は6時には朝食が摂れるよう対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	心身ともに安心して良い睡眠がとれるように、チームで取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	9人の利用者全員、日中活動的に過ごし、不安や悩みなく安心して眠ることが出来ている。睡眠導入剤や安定剤を使っている人はいない。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の生活パターンを大切にしながら、個別に支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話や手紙のやり取りがご自分で出来ない方は、職員が間に入って支援している。ご自分で携帯電話を使用している方もいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	必要な手助けを行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人の要望に応じて、いつでも気兼ねなく電話が出来る。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	職員が間に入り、電話したり、返事を書いたりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	お願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	コロナ感染のリスクに配慮しながら必要に応じて支援している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	本人を理解している、退職した職員や知人たちに協力をお願いしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	個々の希望や能力に応じて支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	話し合って決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	本人、家族の同意を得ておこづかい程度の小額を預かりし、事前に確認してから使用し、ご面会時に出納帳や領収書を確認していただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	個々のニーズに対応して、可能な限り柔軟に取り組んでいる。	◎		◎	現在のコロナ禍において、外出や外食の要望などに応えられない部分があるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、病院受診は家族にお願いしているものの、急を要する場合もあり、職員がほとんどの同行受診の対応をしている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	コロナ禍で、建物内は面会制限しているが、外のベンチを利用して感染リスクを回避しながら気軽に交流していただいている。	◎	—	◎	事業所前にはベンチを置き、利用者や来訪者が座って休めるようにしている。事業所は工場の隣接地帯に立地しているものの、裏側には住宅地も広がっており、玄関を開放し来所しやすい環境づくりをしている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。）	◎	清潔で家庭的な居心地の良い環境となるように、配慮している。	◎	—	◎	事業所内は、季節の造花や観葉植物、花の写真を飾っているほか、貼り絵や行事案内、クリスマスツリーなどを設置し、利用者や来訪者に季節が感じられるよう支援している。共用空間にはカウンターキッチンがあり、職員は調理しながら利用者の様子を見渡すことができる。リビングにはソファやテーブルが置かれ、居室も含めて利用者は思い思いの場所で過ごしている。さらに、メダカを飼育しており、利用者の癒しにもなっている。加えて、職員が毎日こまめな清掃を行うほか、アルコール噴霧や次亜塩素酸水で消毒を行うとともに、加湿器の機能のある空気清浄機が設置され、清潔が保持されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、チェック表で確認して居心地の良い、清潔な環境の支援に取り組んでいる。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	壁面装飾や季節の花、調理の音やにおいなどで五感に働きかけるように支援している。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	日中はほぼリビングで賑やかに過ごされるが、時には居室で趣味に没頭したり、ソファでくつろいだり自由に過ごされている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	見えないつくりになっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた家具や装飾品、小物などを本人やご家族と相談して持ち込み個々の居心地の良い空間になっている。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、タンス、キャビネットが備え付けられている。入り口には暖簾が掛けられ、柄などで居室を把握できている利用者もいる。また、家族の写真や鏡台、テレビなどを持ち込むことができ、利用者一人ひとりに合った居室づくりをしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	生活の全ての場面で、工夫すれば「出来ること」「わかること」を探り、安全を確認しながら実現に向けて取り組んでいる。			○	利用者に居室が分かりやすいよう、入り口には暖簾を掛けており、自室をフクロウの模様や柄で認識している利用者もいる。タンスには、中に入っているものが分かるように表示をしている。また、車いすの利用者が移動しやすいよう廊下や居室などには物を置かず、動線も確保されている。さらに、利用者がいつでも手に取れるよう、小さな鏡やブラシなどを置くことができている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	常に気にかけて洗い出し、工夫している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	個々の出来ることや興味のあることを把握して、自ら手にとって使えるように支援している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	勉強会等で学び、理解している。日中、施錠している所はない。	◎	—	◎	事業所では、日中玄関やユニットの入り口を施錠しないことが通常となっている。職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。ユニットの入り口にはドアチャイムが設置され、利用者が外出しようとする場合には、職員は分かりやすくなっている。また、夜間は防犯のため、18時30分から7時まで施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族様に理解を得ている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	施錠の必要がないように、利用者の心理状態を常に把握し、行動も予測してリスク回避している。 ご近所とも良好な関係性を築き、いざと言う時の協力を仰いでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ご入居時に病歴や持病を確認し、毎日の常用薬の袋にも何の薬かを記入して把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者一人ひとりを常に見守り、コミュニケーションを多くとることで、体調の変化や異常のサインを早期に発見できている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることは連携医の担当ナースにいつでも相談できるようになっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望する病院を受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望を確認しながら、かかりつけ医と相談して適切な医療が受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人やかぞくの合意の元で医療受診や通院を支援している。受診後は必ず報告をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	詳細な情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	家族と相談の上、病院関係者と情報交換し、早期退院できるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	地域連携室の相談員との関係づくりを行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎週、連携医へ利用者の心身の健康状態を報告している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連携医にいつでも気軽に相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日常的に健康管理や状態変化に応じた支援ができる体制になっている。早期発見、早期治療に繋がっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬をセットする時に、毎日目に触れるように、薬袋に記入している。薬の変更があった場合は副作用や用法、容量について回覧している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬のセットや服薬支援の仕方を工夫し、飲み忘れや誤薬はない。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日確認し、チェック表や日常記録に記録している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎日確認し、チェック表や日常記録に記録している。記録を元に家族や連携医に情報提供している。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時、状態変化の段階ごとに、本人、家族、連携医と話し合い、意向を確認しながら方針を共有している。				事業所として、「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に利用者や家族に説明し、現行での意向を確認している。また、重度化した場合など段階に応じて、利用者や家族、連携医師等で話し合い、方針を共有して支援をしている。また、連携医師や訪問看護と24時間体制の医療連携が取れており、利用者や家族、職員は安心感がある。さらに、事業所では10名の看取りケアの経験があり、運営推進会議の中でもターミナルケアの研修を実施したり、SNSの映像を活用したりしながら、職員は学んでいる。加えて、急変時には主治医と相談し、病院へ救急搬送となる利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	話し合って方針を共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員個々の思いや力量を把握して、人員配置や役割分担を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	ご入居時、状態変化の都度、十分に説明し、理解を頂いている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ホーム内での看取りを重ねる度に、学習させて頂き、今後の変化に備えて十分な体制が整っているが、さらに医療や介護の知識の向上に努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	日頃から、話しやすい親しい関係性づくりに努め、気軽にご相談いただけるように支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会のテーマに、定期的に取り入れて学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会や防災訓練の時間を利用して訓練学習を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症に対する情報は幅広い情報源から敏感に察知し、最新情報を取り入れて対応を検討している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	連携医や看護職員、訪問看護事業所他、地域の方から情報を得て、随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	徹底支援している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者の近況を細かく報告し、本人から距離を置くことがないように、月に1度以上訪問して頂いている。				コロナ禍以前は、クリスマス会や運営推進会議などの開催時には、家族に参加を呼び掛けていたものの、ほとんどの家族が日中働いていることもあり、ほとんど参加を得られることはなかった。事業所の利用料金は、毎月家族が来所して事業所の窓口で支払っていたこともあり、家族は毎月来所する機会があったが、現在のコロナ禍において、利用料金は口座引き落としに変更していることもあり、家族の来訪する機会は激減している。また、事業所では、オンラインでの面会にも対応しているが、ほとんど利用する家族はいなかった。さらに、家族には、面会時や電話連絡時に利用者の様子を伝えているほか、2か月に1回、利用者の様子などを書いた報告書に、写真を添えて送付している。利用者家族等のアンケート結果から、職員の入・退職などの情報や運営上の出来事などが伝わっていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に情報を伝えたり、報告書の送付時に事務連絡を添えたりするなど、家族の理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍で、入室制限をさせて頂いていたが、ご理解の上で、庭のベンチを利用して面会を楽しんでいた。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ禍で、感染のリスク回避のため、ご家族様の活動参加は制限させて頂いている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のモニタリング会議記録や運営推進会議の写真記録を元に、詳細な報告をさせて頂いている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時や電話で気軽に話せるように支援している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	なるべく専門的な言葉や表現を避けて、認知症についてご理解いただけるように努めている。時には介護専門誌のコピーやインターネットの記事などを引用して分かりやすい工夫をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族様のご事情が許す限り、その都度報告し、理解や協力を得ている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在のご入居者様は、複雑なご事情のご家族が多く、家族間の交流は図れていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	様々な角度からリスクを洗い出して、回避に努めている。ご家族にも対応策についてご意見を伺っている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	具体的に説明し、理解納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	ご理解いただけるように、文書や口頭で説明し、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	折に触れ会話を交わし、目的や役割などについて説明し、ご理解、ご協力を頂いている。		-		法人・事業所として、町内会に加入している。コロナ禍以前は、利用者と一緒に地域の運動会や公民館活動に参加して展示などを見に行ったり、近隣の幼稚園と交流があったり、琴や尺八などのボランティアを受け入れるなど、多くの交流ができていた。また、地域の民生委員から、運営推進会議等を活用して、多くの地域行事の情報を得たり、事業所の隣にある缶詰工場から缶詰をもらったり、近隣住民から野菜の差し入れをもらうこともできていた。さらに、市行政から介護サービス相談員を派遣してもらい、利用者の話を聞いてもらうこともできていた。加えて、事業所では、地域にある障がい者や高齢者施設等と、「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、一軒家を借りて毛布などの備蓄品を確保したり、話し合いをしたりするなどの交流を深めることができていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	コロナ禍のため、機会は減ったが感染予防策を徹底した上で出来る限り支援している。		-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	天気の良い日は、毎日近隣や公園への散歩支援を行い、挨拶を交わす機会を大切にしている。				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	コロナ禍で、制限させていただいている。短時間、庭のベンチを利用してお話をさせていただいている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	開設以前から付き合いが長く、お互いに頼みごとや相談事ができるお付き合いをしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	必要な時はご協力いただける体制がある。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	個々の暮らしを支える地域資源を把握して、本人の状態や思いに寄り添ってできる範囲で支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	コロナ禍のため、機会は減ったが、できる範囲で取り組みを行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ禍のため、制限している。	◎		○	運営推進会議は、町内会長や民生委員、警察署、近隣のグループホームや小規模多機能型居宅介護等の職員、地域包括支援センター、市担当者などの参加を得て、偶数月に開催している。現在のコロナ禍において書面会議となっており、参加メンバーに報告書を送付し、FAX等を活用して、意見をもらうことができています。また、会議には全ての家族に参加を呼びかけていたものの、1～2組の家族の参加に留まっている。さらに、会議では事業所内や利用者の様子が分かりやすいようにスクリーンで映像を流すほか、ターミナルケアなどの研修会を合わせて開催するなどの工夫をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	報告している			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告している		-	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナ禍のため、制限している。		-		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	ホームの見やすい所に掲示して見て頂いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員会やサービス担当者会議などで、解決課題が生じる度に立ち戻って、話し合い、解決策を見出すようにしている。 常に理念を念頭において日々のケアを行っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	パンフレットに記載したり、ホームの見やすい所に掲示して見て頂いている。	○	－		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	常に介護の現場により添って、個々の職員の力量を把握し、その時々に必要な学習テーマに沿って、研修の機会を提供している。				事業所では、少人数で毎月社内研修や勉強会を開催し、テーマ毎の担当職員が資料などを準備しながら実施したり、地域の病院等が月1回実施する外部研修に参加させてもらったりするなど、職員のスキルアップに努めている。現在のコロナ禍において、外部研修の開催は自粛となったものの、ピック病などの病気をテーマに取り上げたり、月刊誌の「おはよう21」を参考にして資料を作成したりするなど、職員へ学びの機会を確保している。また、ほぼ毎日代表者は来訪し、日々の利用者や職員と対話をしていることもあり、職員も話やすく、プライベートの相談にも応じるなど、職員との信頼関係が築かれている。さらに、希望休や有給休暇の取得を勧めたり、コロナ禍以前は職員との懇親会を取り入れたり、利用者や職員にキーなどの差し入れを頻繁にするなど、働きやすい職場づくりに努めていることもあり、長年に働く職員も多い。加えて、ほとんど超過勤務をすることなく、職員はそれぞれの勤務時間の定時に帰宅することができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	常に介護の現場により添って、個々の職員の力量を把握し、その時々に必要な学習テーマに沿って、研修の機会を提供している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	常に現場により添って、職員個々のスキルを把握し、健康やストレスにも耳を傾け、職員が働きやすい環境整備に取り組んでいる。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	コロナ禍のため、実施していない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	常に考え、些細なことも迅速に改善するように取り組んでいる。	◎	－	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に学習する機会を設けて理解を深め、セルフチェックで確認している。				定期的に、事業所では虐待防止等のマニュアルに基づいた勉強会等を実施し、職員は理解している。また、職員には年2回高齢者虐待防止セルフチェックシートを活用したアンケートを実施し、取りまとめた職員間で話し合い、より良いサービス提供に努めている。さらに、不適切なケアを発見した場合には、別室などに該当職員を呼び、管理者等が注意喚起している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	現場との距離がないように、日常的に現場へ出て、職員と一緒に日々のケアを振り返っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	定期的に勉強会や研修資料で学習し、理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	現場との距離がないように、日常的に現場へ出て、職員と一緒に日々のケアを振り返っている。職員の疲労やストレスにもコミュニケーションを図りながら注意を払っている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	繰り返し学習の機会を設けて理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	些細なことでも、気になる事例が上がる度に、改善に向けて話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	丁寧に説明してご理解いただき、解決策と一緒に考えて頂いている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	学習の機会を設けて学び、理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	個々の状況に応じて親身になって相談に乗り、適切に対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連携体制を築き、協力やアドバイスを 頂いている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを繰り返し確認して、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	毎月の防災研修の日にテーマとして取り上げて学習している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	些細なことも日常記録や連絡帳で共有し、リスク回避に努めている。ヒヤリハット報告書は重く受け止め、幅広くリスクマネジメントについて改めて考え直す機会にしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の健康状態や性格、こだわり、認知症の症状他、多角的に捉えて、リスクを洗い出し、回避するように努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情が出た場合は、マニュアル通りに対応し、改善策を検討したい。苦情とならないように、些細な相談ごととも、一緒に考え、改善するように日頃から取り組んでいる。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情を寄せられたことはないが、今後必要なことがあれば真摯に対応し、市にも相談報告をしたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情を寄せられたことはないが、日頃から何でも話し合える関係性を築き、些細なことも真摯に受け止めて、迅速な対応で信頼を得るように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	本人の思いは日常的に傾聴し、思いを言葉に出来ない方も小さな反応や表情の変化で受け止めるように努めている。改善に向けて出来る限り迅速に対応している。			◎	コロナ禍以前は、市行政から介護サービス相談員の派遣があり、利用者の意見や話を聞き、管理者等に伝えてもらうこともできていた。現在は、日々の会話の中で職員が利用者から意見を聞いている。また、入居時に、家族には相談窓口があることを説明するとともに、面会時や電話連絡時に意見や要望を聞き、対応をしている。さらに、代表者等は、日々の職員と対話をしていることもあり、職員も話しやすく、デジタル血圧計などの備品の購入の要望にも対応したりするほか、年1回職員アンケートを実施して意見を聞くこともできている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	ご家族様には、電話や面談でお話しする機会がある度にご意見やご要望をごちからからお聴きするようにしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初は行っているが、日常的には行っていない。定期的な情報提供を検討したい。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎日、現場と接して気軽に意見や要望が言える機会がある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員会や、ケース会議の度に、職員一人ひとりに声をかけて意見を聴き、改善策と一緒に考え、実践し、再度調整している。常にご利用者様にとって良い方向へ進化するケアに取り組んでいる。			◎	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、各ユニットで職員の意見を聞きながら作成している。外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告するほか、職員にも報告して目標達成計画を作成し、目標達成に向けて取り組んでいる。以前は、サービスの評価結果を家族に報告することができていたが、現在のコロナ禍において家族に報告することができておらず、利用者家族等のアンケート結果から、家族に外部評価の取組み状況の理解が得られていないことが窺えるため、今後は簡単に評価結果をまとめたものを送付したり、コロナ禍の収束後には、家族等に取組み状況の確認などのモニターをしてもらったりするなど、理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	活かしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告はしているが、モニターはお願いしていない。	×	－	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	改善に努め、成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	マニュアルに添って1回/月設定している防災の日に繰り返し確認している。				年2回、日中や夜間を想定した避難訓練等を実施している。各種マニュアルのほか、事業所前には河川があり、ハザードマップで水害の対象地域に立地しているため、避難確保計画を作成している。コロナ禍以前は、一度近隣住民等と合同訓練を実施したことがあるほか、近隣にある工場との災害発生時の連携や連絡体制を取ることができている。また、法人・事業所として、地域にある障がい者や高齢者施設等と、「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、一軒家を借りて毛布などの備蓄品を確保したり、市行政を講師に呼んで研修会を実施したり、相互の避難体制を確保するなど、連携を深めることができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルに添って1回/月設定している防災の日に繰り返し想定訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	協力、支援体制は出来ているが、コロナ禍のため、合同訓練は控えている。	○	－	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	ネットワークは出来ているがコロナ禍のため、合同訓練は控えている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	コロナ禍のため、積極的には行っていないが、地域の方からの相談や依頼には快く対応させて頂いている。				法人・事業所として、地域住民から相談があった場合には快く対応をしている。また、事業所では、近隣の福祉施設と連携して、「えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、防災等を中心とした協力体制を構築することができている。さらに、市担当者や地域包括支援センター等の会議や研修に参画するなど、スムーズな連携も取れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	気軽に見学や相談をしていただけるように、常にオープンにしている。		－	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	コロナ禍のため、控えている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	依頼があればいつでも受け入れられる。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	◎	連携を密にして、アドバイスやご協力を頂いている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3870102690
事業所名	グループホーム 優寿の里
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏 名	堀 恵子
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 31 日

【事業所理念】 ・生活の質の向上 ・共に生きる姿勢 ・信頼関係の確立	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・個人記録にご本人の発した言葉など、記録内容の充実 ・介護接遇研修の実施	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 河川の近くにある事業所は、周辺には工場や住宅地が建ち並んでいる。代表者や管理者は、「自分の親が入所して良かった」と思える事業所となるよう職員に伝え、利用者に配慮した対応が取れるよう指導している。現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に事業所周辺を散歩したり、季節に応じて、ドライブをして車中からコスモス畑を見たり、外気浴をするなど、利用者が気分転換ができるよう努めている。また、年2回職員は高齢者虐待防止セルフチェックシートを活用したアンケートを実施し、取りまとめて職員間で話し合い、より良いサービス提供に努めている。さらに、ほぼ毎日代表者は来訪し、日々利用者や職員と対話をしていることもあり、職員も話しやすく、プライベートな相談にも応じるなど、職員との信頼関係が築かれている。希望休や有給休暇の取得を勧めたり、コロナ禍以前は職員との懇親会を取り入れたり、利用者や職員にケーキなどの差し入れを頻繁にするなど、働きやすい職場づくりに努め、長期に働く職員も多い。ほとんど超過勤務をすることなく、職員はそれぞれの勤務時間の定時に帰宅することができている。加えて、法人・事業所として、地域にある障がい者や高齢者施設等と、「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、相互の避難体制を確保するなど、連携を深めることができている。
---	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	家族、本人からの情報を得て、ケアプランに繋げている。	◎		◎	入居時に、事業所では利用者や家族から、思いや意向などの聞き取りをしている。以前利用していた施設や病院からサマリーなどの情報提供を受けることもあるが、実際の情報と異なる場合も多いことから、日々の生活の中で、利用者から思いや希望等の新たな情報を聞くこともあり、管理日誌等に記載して職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の表情や様子を注意深く観察したり、家族から情報を得ている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族より詳しくお聞きしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の言葉、行動を日々の記録に残し、職員会などで共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	職員の思い込みで決めつけることなく、本人の思いを見落とさないように留意している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時にご家族・本人よりお聞きしている			◎	入居時に、事業所ではアセスメントシートを活用して、生活歴等を聞き、記録に残している。また、介護支援専門員から情報を聞くこともある。さらに、日々の生活の中で、職員は利用者の様子を観察したり、会話の中から情報を聞いたり、家族から電話連絡時や面会時に情報を聞くなど、新たな情報を把握している。1階ユニットでは、認知症の利用者の理解を深めるために、「パーソン・センタード・ケア」にも取り組んでいる。新たに把握した情報は、管理日誌やアセスメントシートに記載するほか、介護計画の更新時に合わせて、シートの記載情報も更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の記録に残し、毎月のモニタリング・職員会議で把握している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	行動を細かく観察し日々の記録に残し、職員間で共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	いつもと違う事があれば、早めに気づき対応している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一人ひとりの24時間の記録に残し把握している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ケアプラン変更時には、家族からのご意見も参考に立てている。			○	事業所では、ユニット毎に月1回職員会議を開催するとともに、利用者の状況に応じて、ケース会議を実施し、課題解決に努めている。現在のコロナ禍において、家族や外部の関係者はサービス担当者会議に参加できないため、郵送等で家族から意見を聞いたり、医師や薬剤師などの関係者から指示やアドバイスをもらいながら、職員間で話し合い、利用者の視点に立って、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人、職員間で定期的に会議で検討し支援している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	職員間で課題を共有し、実践に取り組んでいる。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人、家族からのご意見を組み入れて、プランを立てている。				アセスメントシート等の情報をもとに、利用者や家族の意見のほか、医師や看護師、薬剤師等の指示やアドバイスを取り入れ、職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、月2回薬の配達のほか、運営推進会議にも薬剤師が参加していることもあり、薬の副作用などの情報も詳しく、利用者の様子もよく把握しているため、日常的に相談やアドバイスをもらうことも多い。さらに、介護計画は、利用者や家族の意向を反映するとともに、表しにくい思いにも寄り添えるようなサービス内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	医療面では、主治医、看護師、薬剤師に相談しながら、本人、家族の意見を聞き取りして作成している	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族からの意見を参考に本人にとってより良い環境を作っている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や、地域の人たちの協力を得てプランを作成している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員間で共有し、実践に取り組んでいる。			◎	月1回実施するモニタリング会議の中で、利用者の現状を確認をするとともに、職員は介護計画の内容を把握している。また、生活援助計画(ケアプラン)を1つの綴りにまとめて保管し、職員に確認しやすくとともに、計画作成時には一人ひとりの計画の確認後に職員がサインを残すことができている。さらに、介護計画のサービス実施内容が分かりやすいよう、個人記録に24時間の利用者の状況のほか、発した言葉や様子、気づきなどが記録されている。加えて、代表者は介護記録の重要性を理解しているが、記載事項が多く、職員の負担軽減や最低限必要とする記録を考え、今後ICT化などを検討している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的にモニタリングを行いケアの実践に取り組み、日々の支援につなげている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個々の記録に言葉、表情等を記録している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個々の記録に残している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に行い見直しを行っている。			◎	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。毎月職員会議の中で、モニタリング会議を開催し、利用者の状態の確認を実施し、「できている・できていない」などの評価をするとともに、コメントを残している。また、モニタリング会議において状態の変化が見られた場合や介護計画の更新時には、アセスメントシートの情報を更新している。また、大きな変化が見られた場合には、現状に即した介護計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回の職員会議、モニタリングにて確認を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人に変化が生じた場合、職員会議にて見直しを行い、計画を作成している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	1/月でモニタリング、緊急時には、早めに対策を考えている。			○	事業所では、ユニット毎に月1回職員会議を開催するほか、利用者の状況に応じて、その都度ケース会議を実施し、課題解決に努めている。また、職員会議は、月末の午後の時間帯に1時間程度実施している。さらに、代表者や管理者は、日頃から職員が意見を出しやすい環境づくりに努めており、会議を合わせて職員から多くの意見が出されている。加えて、参加できなかった職員には、後日会議録を確認してサインをもらうほか、重要事項は口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員の意見交換ができればように、日頃からコミュニケーションを取っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	不参加の職員には、前もって意見の聞き取りを行っている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	職員会議録での情報を共有している。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	職員間の伝達簿、報告にて情報を共有している。			◎	朝・夕に申し送りをするほか、日々の管理日誌にもその日の出来事やユニットの全利用者の申し送り事項等を記載することができている。また、緊急の重要事項は、正確な伝言をしている。さらに、出勤時には管理日誌を職員は必ず確認するとともに、確認後にはサインを行い、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	管理日誌、伝達簿にて、情報を共有している。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	本人のお伺いをたて叶えられるように努めている。				事業所では、利用者の意見や意向を尊重するとともに、出された要望に柔軟に対応するなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。職員は声かけをして、着る服を二者択一で選んでもらったり、温かい・冷たい飲み物にするか聞いたりするなど、可能な範囲で利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、1階ユニットは比較的若く、元気な利用者が多いこともあり、日々会話に盛り上がり、明るく楽しい生活が送れている。2階ユニットでは、高齢化や重度化が進行しているものの、代表者や管理者、職員は利用者との声かけなどのコミュニケーションに努めるとともに、マスクをはずして笑いを誘うなど、その一瞬も大切にしたい支援に取り組み、笑いや生き生きとした表情を見ることができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	一人ひとりの思いを大事にし、ゆつくりとお伺いしている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	一人ひとりの残存能力に合わせながら支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりのペースに合わせながら行っている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	コミュニケーションをよくとっている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	ちょっとした顔の表情などを見逃さずに観察し、本人の意向に沿った暮らしが出来るように支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会で学び、言葉かけ、態度等には、常に意識して支援にあたっている。	◎	-	◎	月1回実施する勉強会等で、介護接遇研修を実施し、職員は人権や尊厳などを学ぶとともに、常に意識した行動や言動ができるよう努めている。代表者は、「自分の親が入所して良かった」と思える事業所となるよう職員に伝え、配慮した対応が取れるよう指導している。また、職員はやさしく丁寧な対応ができているものの、時には耳の遠い利用者に大きな声を出してしまうこともあるため、代表者等は該当職員を別室に呼んで、確認するとともに注意喚起をしている。さらに、居室の入室時には、職員から声かけやノックを行うとともに、不在時には事前に利用者の了承を得てから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	職員は常に意識してケアにあたるように努めている。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けには注意を払い、プライバシー等に配慮して介助を行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室への出入りの際には、ドアノック、声掛けを行っている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護方針を理解し、周知徹底させて実施している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として敬い、感謝の意を述べている。				洗濯物たたみを手伝ったり、洗濯物を各居室に運んだりするなど、利用者同士で助け合い、感謝の言葉を伝えている。また、よく会話をする利用者が、安易なことから言い合いになったり、認知症の進行で何度も同じ言葉を繰り返して言う利用者に、他の利用者が、「さっきも言ったのに」などと言ったりすることもあるが、席替えや職員が利用者の間に入るなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が役割分担をもちながら支えあっている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	一人ひとりの個性を大事にして、利用者間でトラブルにならないような、環境を作っている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入り解消に努めている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時、面会時にお聞きし把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所時、面会時にお聞きしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍の中、外出 面会が難しくなってきた。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナ禍の中、外出 面会が難しくなってきた。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ禍の影響もあり、外出の機会は減ってきているが、散歩、ドライブなどで気分転換を図って頂いている。	○	－	◎	現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に事業所周辺を散歩したり、季節に応じて、ドライブをして車中からコスモス畑を見たり、外気浴をするなど、利用者が気分転換ができるよう努めている。また、車いすを使用している利用者も一緒に、外気浴や散歩をすることができている。コロナ禍以前は、今治イオンモールや道の駅「風和里」に出かけて買い物をしたり、外出をして弁当を食べたり、散歩をするなど、時間があれば外出することができていた。さらに、外出が減少しているものの、事業所内で夏祭り風に屋台を取り入れたり、焼きそばやたこ焼きパーティーをしたりするなど、利用者が楽しめるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍の影響もあり協力体制は出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	本人の体調を考慮しながら車椅子での外気浴、散歩を行っている。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍で支援は難しくなってきた。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会で理解を深め、一人ひとりの状況を把握しケアに当たっている。				毎日のラジオ体操や歩行訓練、足踏みをするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。また、1階ユニットでは、認知症の理解をする「パーソン・センタード・ケア」を取り入れたり、洗濯物たたみなどの生活リハビリも努めている。また、利用者のできることやできそうなことは、見守りや待つ介護に努め、スプーンを持って食べる姿が見られるなど、新たに利用者ができることを発見したこともある。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	機能低下の特徴を理解して、主治医、看護職とも相談の上、維持できるように努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ゆっくりと見守りながら、一緒に行っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	職員会議で話し合い、情報を共有している。				利用者と一緒に季節の貼り絵をしたり、新聞でごみ箱を折ってもらうなど、利用者の役割や出番づくりができるよう努めている。また、職員が横について見守りながら、洋裁を楽しむ利用者もいる。さらに、利用者と一緒に図書館に本を借りに行ったり、地域のバザーに出かけたりするなど、張り合いや楽しみが持てるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	一人ひとりの残存機能を把握し、職員会議にて役割分担を作っている。	○	－	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ禍の影響もあり、地域との交流は控えている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	個性を大切にし、おしゃれを楽しんで頂いている。その後、職員が身だしなみチェックを行っている。				起床時に、自分で服を選ぶとともに、ドレッサーの前に座り髪型を整えて、リップクリームを付けるなどのおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。また、自分で髭剃りをしている利用者もいる。さらに、食べこぼしや整容の乱れが見られた場合には、食事用のエプロンを着用したり、さりげないフォローをしたりしている。加えて、重度な利用者にも、毎朝のパジャマからの着替えを支援するほか、家族と相談しながら身だしなみを整えるとともに、清潔感のある配慮をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	本人の個性を生かしながら、本人の好みで整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の気持ちを大切にしながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出、行事などでは、その人らしいおしゃれを楽しんで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを大切にし、さりげなく声掛けを行っている。	◎	—	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族、本人の希望で訪問美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族と相談の上、その人に似合った支援を行っている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の楽しさ、大切さを理解している。				各ユニットで食事は異なっており、1階ユニットでは人材確保が難しいため、昼食と夕食は宅配弁当を利用し、職員が朝食を料理するほか、昼食時と夕食時の炊飯と汁物を用意している。月1回、宅配弁当を止めて、利用者の食べたいメニューを取り入れ、料理することができている。2階ユニットでは、業者に食材を配達してもらい、その日の冷蔵庫にある食材を見て、利用者に食べたいメニューを聞きながら、職員が献立を決めている。献立は、同じような物に偏らないよう、バランスの取れたメニューになるよう努めている。昼食は調理が得意な職員を中心に調理しており、利用者の好評を得ている。誕生日や行事食の場合には、利用者の食べたいメニューを聞き、ちらし寿司やうどんなどを提供することが多い。高齢や重度の利用者も多く、手伝うことは減っているものの、テーブル上で食器を集めたり、届く範囲でのテーブル拭きを手伝ってもらうなど、できることをしてもらえよう取り組んでいる。利用者毎の食事形態に合わせて、刻み食などの対応をすることができている。1階ユニットでは、食事の時には主に職員は利用者の見守りやサポートを行い、時間をずらして食事を摂っている。2階ユニットでは、昼食時に職員も利用者と同じ物を食べているものの、介助が必要な利用者も多く、職員は時間をずらして食事を摂っている。また、おやつは、おはぎやバナナカステラなどの懐かしいものを提供することも多い。重度な利用者も、リビングで調理の音や匂いを感じることができている。さらに、偏りのない食事などを職員間で話し合ったり、体重の増減や健康診断の結果などを医師に相談しながら、糖質や食事量などのアドバイスをもらったりすることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	コロナ禍の影響で買い物は控えている。時には、カタログで食材を選んでいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	後片付け等個々の力が発揮できる場を作っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	職員間で情報を共有し把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬の食材を使い季節を感じて頂いている。おやつなどに懐かしい物を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりと器の工夫等)	◎	一人ひとりに合わせた調理方法で提供している。又目で見える楽しみも感じて頂いている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人に合わせて使ってもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	コロナ禍の為、職員は一緒に食べていないが、サポートしながらの食事時間となっている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングとキッチンが隣接しており、匂いなどを感じ取られる。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎日、個々のチェック表にて確認している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎回の食事で、職員が把握し、工夫をしながら提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立表で確認し、偏りが無いように配慮しており、定期的な血液検査で、管理している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に食材の管理をしている。毎日、調理器具を消毒を行っており、衛生面には、特に配慮している。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会を実施し口腔ケアの重要性を理解している。				事業所では、月1回訪問歯科の往診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらうことができおり、結果はミーティング等を活用して職員間で共有することができている。職員は勉強会の開催や訪問歯科にアドバイスをもらいながら、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、利用者は洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施しており、職員は見守りや声かけを行うほか、必要に応じて介助をしている。また、義歯は週1回洗浄をしている。さらに、異常が見られた場合には、早期の訪問歯科に診療つなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	食事後の歯磨きには、職員が付き添い確認をしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	勉強会や訪問歯科医より学び、日常に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後の口腔ケアには職員が付き添って行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	職員が、見守り、口腔内のチェック等を行っている。食後には、重曹水のうがいを実施			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	治療が必要であれば、訪問歯科を利用している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会などで確認し理解している。				重度の利用者も多く、2階ユニットの利用者は、ほとんどリハビリパンツを使用して過ごしている。1階ユニットの利用者は、むやみに紙おむつなどの排泄用品を使用することのないよう取り組んでいる。夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。個別の排泄チェック表に排泄状況を記録して、職員は排泄リズムを把握し、食事前などに声かけやトイレ誘導をしている。また、介護計画の中に排泄支援を取り入れ、こまめに声かけや誘導をしている利用者もいる。さらに、紙パンツなどの使用時には、利用者毎の担当職員が提案し、適切な排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認して使用をしている。加えて、職員は適度な運動、ヨーグルトや食物繊維の摂取などを取り入れて便秘などの防止に努めるとともに、医師の指示を仰ぎながら、下剤などの服薬をしている利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	連携の看護師、薬剤師よりアドバイスをいただいたり、勉強会などで確認し理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	一人ひとりのチェック表でパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	時間的にトイレ誘導を行っている。必要時には会議をもって検討し、支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	会議で検討して、改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	1時間ごとの記録を確認し、声かけ、誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄リズムを確認、検討し、本人や家族と相談しながら選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	会議で検討し、随時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	毎朝のヨーグルト提供、食物繊維の豊富な食材の提供、適宜な運動を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	個々の希望を聞き、入浴出来るように支援している。	◎		○	午前入浴時間を基本として、利用者は週2回入浴することができる。夏場などの汗をかいた場合や汚れた場合には、シャワー浴などの対応もしている。利用者の希望に合わせて、湯船に浸かる時間や温度などにも柔軟に対応し、自分のペースでゆったりと入浴ができるよう支援している。また、入浴を拒否する利用者には、時間をおいて声かけをしたり、トイレのついでに入浴を呼びかけたりするなど、なんとか入浴してもらうことができている。さらに、季節に応じて入浴剤を入れたり、沐浴を取り入れたりするなど、少しでもゆつくりと楽しみのある支援をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	ゆつくりと、入浴できるよう個浴で支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できる事は行って頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いせず、本人の希望を聞いている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前後の健康状態は確認している。入浴後には、水分補給を行っている。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	個々の記録で把握できている。				事業所では、体操や散歩などの日中の活動量を増やすなど、眠剤等に極力頼らず、利用者が夜間に安眠できるよう努め、ほとんどの利用者は良眠することができている。また、高齢や認知症の進行などにより、一晩中しゃべり続ける利用者もいるが、自分の居室で過ごし他の利用者に迷惑がかからない場合には、利用者の生活リズムで過ごしてもらうことも多い。さらに、20時頃には就寝し、ほとんどの利用者は朝5時頃まで睡眠をとり、早い利用者は6時には朝食が摂れるよう対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中、活発に活動して頂けるよう工夫している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者の様子をかかりつけ医に相談しながら、支援を行っている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の好まれる場所で休んで頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族に電話ができるように働きかけている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	暑中見舞い、年賀はがき送りの手助けをする支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返信の手伝いをしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族の理解はあり、電話はかかってくる。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナ禍の為、買い物には出かけていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先の理解や協力を得る働きかけは、行えていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	能力に応じて、本人、ご家族と相談しながら支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人、ご家族と話し合って決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理方法を明確にしており、出納帳を面会時に確認していただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	さまざまな状況に応じて、多機能に取り組んでいる。	◎		◎	現在のコロナ禍において、外出や外食の要望などに応えられない部分があるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、病院受診は家族にお願いしているものの、急を要する場合もあり、職員がほとんどの同行受診の対応をしている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	気軽に訪問できるよう玄関は、常にオープンにしている。	◎	—	◎	事業所前にはベンチを置き、利用者や来訪者が座って休めるようにしている。事業所は工場の隣接地帯に立地しているものの、裏側には住宅地も広がっており、玄関を開放し来所しやすい環境づくりをしている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	◎	共用の空間は、家庭的な雰囲気にしている。	◎	—	◎	事業所内は、季節の造花や観葉植物、花の写真を飾っているほか、貼り絵や行事案内、クリスマスツリーなどを設置し、利用者や来訪者に季節が感じられるよう支援している。共用空間にはカウンターキッチンがあり、職員は調理をしながら利用者の様子を見渡すことができる。リビングにはソファやテーブルが置かれ、居室も含めて利用者は思い思いの場所で過ごしている。さらに、メダカを飼育しており、利用者の癒しにもなっている。加えて、職員が毎日こまめな清掃を行うほか、アルコール噴霧や次亜塩素酸水で消毒を行うとともに、加湿器の機能のある空気清浄機が設置され、清潔が保持されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、数回の掃除で、気持ちよく生活を送って頂いている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	共同の生活の場には、季節の装飾をし、居心地良い空間となっている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	本人の思いで、自由に居室と共同の空間を行き来している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	ドア、又はのれんで仕切っている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人と、ご家族と相談のうえ、馴染みの物を置き、居心地よく過ごせている。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、タンス、キャビネットが備え付けられている。入り口には暖簾が掛けられ、柄などで居室を把握できている利用者もいる。また、家族の写真や鏡台、テレビなどを持ち込むことができ、利用者一人ひとりに合った居室づくりをしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室やトイレのドアなどに言葉やイラストで示している。			○	利用者に居室が分かりやすいよう、入り口には暖簾を掛けており、自室をフクロウの模様や柄で認識している利用者もいる。タンスには、中に入っているものが分かるように表示をしている。また、車いすの利用者が移動しやすいよう廊下や居室などには物を置かず、動線も確保されている。さらに、利用者がいつでも手に取れるよう、小さな鏡やブラシなどを置くことができる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	薬剤など、ドア外、扉内に置き管理している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	馴染みの物品はいつでも手に取れる場所に置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	職員は、鍵をかける事の弊害は理解しており、自由に出入りできている。	◎	—	◎	事業所では、日中玄関やユニットの入り口を施錠しないことが通常となっている。職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。ユニットの入り口にはドアチャイムが設置され、利用者が外出しようとする場合には、職員は分かりやすくなっている。また、夜間は防犯のため、18時30分から7時まで施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ご家族は理解されている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	ユニットごとの出入り口には、ドアチャイムを設置。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人ファイル、受診記録などで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	細かなチェックで、個々の記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医、看護師とは連携をとっており、気軽に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族と相談しながら受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族と相談しながら健康管理を医療支援に繋げている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	入所時に重要事項証明書にて説明。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	個人情報の提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	随時、情報交換や相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	地域連携室の相談員と関係づくりを行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	かかりつけ医に毎週、情報を伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	かかりつけ医と医療連携体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	かかりつけ医と医療連携体制をとっており、早期発見、治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤師から説明をうけ、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れ、誤薬が無いよう、複数の職員で確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	異変があれば、かかりつけ医に連絡、支持をあおいでいる。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個々の記録に残し、往診時に情報提供している。ご家族には、変更時に報告している。				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に説明を行い、状態の変化した場合には家族と話し合いを行い、意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	事業所として、「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に利用者や家族に説明し、現行での意向を確認している。また、重度化した場合など段階に応じて、利用者や家族、連携医師等で話し合い、方針を共有して支援をしている。また、連携医師や訪問看護と24時間体制の医療連携が取れており、利用者や家族、職員は安心感がある。さらに、事業所では10名の看取りケアの経験があり、運営推進会議の中でもターミナルケアの研修を実施したり、SNSの映像を活用したりしながら、職員は学んでいる。加えて、急変時には主治医と相談し、病院へ救急搬送となる利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき方針を共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の力量を把握し、見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時、必要時には十分な説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、かかりつけ医と連携を図り、支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族間の事情を考慮し、家族への心理的支援は行えている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	内部研修で定期的に学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成しており、定期的に学んでいる。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	多方面より情報を得て、職員間で共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	かかりつけ医、市役所、地域の事業所などから、情報収集している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	数力所に消毒液を設置。職員は、徹底しており、来客には、張り紙と声掛けにて、清潔を保持できるよう支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	理念に掲げ、家族とともにささえていく関係性を築いている。				コロナ禍以前は、クリスマス会や運営推進会議などの開催時には、家族に参加を呼び掛けていたものの、ほとんどの家族が日中働いていることもあり、ほとんど参加を得られることはなかった。事業所の利用料金は、毎月家族が来所して事業所の窓口で支払っていたこともあり、家族は毎月来所する機会があったが、現在のコロナ禍において、利用料金は口座引き落としに変更していることもあり、家族の来訪する機会は激減している。また、事業所では、オンラインでの面会にも対応しているが、ほとんど利用する家族はいなかった。さらに、家族には、面会時や電話連絡時に利用者の様子を伝えているほか、2か月に1回、利用者の様子などを書いた報告書に、写真を添えて送付している。利用者家族等のアンケート結果から、職員の入・退職などの情報や運営上の出来事などが伝わっていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に情報を伝えたり、報告書の送付時に事務連絡を添えたりするなど、家族の理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	コロナ禍の影響で来訪はないが、対応は出来ている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ禍の影響で活動の機会はつれていない。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に1回、本人のご様子などの報告書の発行。日常のご様子の写真を送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	具体的な内容を把握して報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	より良い関係性は築けている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議は開催していないが、定期的なお便りで伝えている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	ご家庭の事情もあり、交流は難しい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	会議で話し合い、必要時には家族に説明している。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	変更時には説明を行い、理解を頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	本人、ご家族との話し合いで納得のいく退去先に移れるように支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約書他文書で説明し、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の人に理解して頂いている。	/	-	/	法人・事業所として、町内会に加入している。コロナ禍以前は、利用者と一緒に地域の運動会や公民館活動に参加して展示などを見に行ったり、近隣の幼稚園と交流があったり、琴や尺八などのボランティアを受け入れるなど、多くの交流ができていた。また、地域の民生委員から、運営推進会議等を活用して、多くの地域行事の情報を得たり、事業所の隣にある缶詰工場から缶詰をもらったり、近隣住民から野菜の差し入れをもらうこともできていた。さらに、市行政から介護サービス相談員を派遣してもらい、利用者の話を聞いてもらうこともできていた。加えて、事業所では、地域にある障がい者や高齢者施設等と、「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、一軒家を借りて毛布などの備蓄品を確保したり、話し合いをしたりするなどの交流を深めることができていた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	近隣とは日常的なあいさつを交わしたり、地域の行事への参加などで関係性を深めていっている（コロナ禍で行事は行えていない）	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域に関わることで、増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	コロナ禍で制限している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	日常的な挨拶を交わし、旬の食材を頂いたりすることもある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	コロナ禍の影響もあり、	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源を利用して、楽しく生活が送れるよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	◎	地域の諸施設と協力できるよう関係性を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ禍の為中止している。	◎	/	○	運営推進会議は、町内会長や民生委員、警察署、近隣のグループホームや小規模多機能型居宅介護等の職員、地域包括支援センター、市担当者などの参加を得て、偶数月に開催している。現在のコロナ禍において書面会議となっており、参加メンバーに報告書を送付し、FAX等を活用して、意見をもらうことができていた。また、会議には全ての家族に参加を呼びかけていたものの、1～2組の家族の参加に留まっている。さらに、会議では事業所内や利用者の様子が分かりやすいようにスクリーンで映像を流すほか、ターミナルケアなどの研修会を合わせて開催するなどの工夫をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	◎	運営推進会議で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	出された意見や提案等をサービスの向上に活かしている。	/	-	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ禍の為行えていない。	/	-	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	受付に設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を組織内で共有し、日常的に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	リビングに掲示、施設パンフレットに記載し、伝えている。	○	－		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員の力量を把握し、計画的に研修を行っている。				事業所では、少人数で毎月社内研修や勉強会を開催し、テーマ毎の担当職員が資料などを準備しながら実施したり、地域の病院等が月1回実施する外部研修に参加させてもらったりするなど、職員のスキルアップに努めている。現在のコロナ禍において、外部研修の開催は自粛となったものの、ピック病などの病気をテーマに取り上げたり、月刊誌の「おはよう21」を参考にして資料を作成したりするなど、職員へ学びの機会を確保している。また、ほぼ毎日代表者は来訪し、日々の利用者や職員と対話をしていることもあり、職員も話やすく、プライベートの相談にも応じるなど、職員との信頼関係が築かれている。さらに、希望休や有給休暇の取得を勧めたり、コロナ禍以前は職員との懇親会を取り入れたり、利用者や職員にキーなどの差し入れを頻繁にするなど、働きやすい職場づくりに努めていることもあり、長期に働く職員も多い。加えて、ほとんど超過勤務をすることなく、職員はそれぞれの勤務時間の定時に帰宅することができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	計画的に実施しスキルアップを図っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	常にコミュニケーションをとり、関係性を構築している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者と交流する機会を積極的に行い、職員の意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	現場に耳を傾け、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	◎	－	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	マニュアルに基づいた勉強会を定期的に実施し、理解している。				定期的に、事業所では虐待防止等のマニュアルに基づいた勉強会等を実施し、職員は理解している。また、職員には年2回高齢者虐待防止セルフチェックシートを活用したアンケートを実施し、取りまとめて職員間で話し合い、より良いサービス提供に努めている。さらに、不適切なケアを発見した場合には、別室などに該当職員を呼び、管理者等が注意喚起している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の申し送り、定期的な会議への参加。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	定期的な勉強会で学んでいる。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	適宜、アンケートを実施。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	コンプライアンスについて勉強し、意識づけている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会、委員会で話し合う機会をつくっている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	事業所としての取り組みを説明し、理解を得ている				

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	勉強会で理解できている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	必要とされる方には、パンフレット等で情報提供し、相談にものっている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	必要とされる方には、専門機関と連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練を定期的に行っているが、職員が全員参加できるよう調整している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	些細なことでヒヤリハットにまとめ、職員間で話しあいをもって再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	定期的に会議を行い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成しており、職員は理解できている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	職員に報告し速やかに対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があれば早急に対応していきたいと思っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	入所時に文書で説明を行い、常に気軽に話ができる関係性を築いている。			◎	コロナ禍以前は、市行政から介護サービス相談員の派遣があり、利用者の意見や話を聞き、管理者等に伝えてもらうこともできていた。現在は、日々の会話の中で職員が利用者から意見を聞いている。また、入居時に、家族には相談窓口があることを説明するとともに、面会時や電話連絡時に意見や要望を聞き、対応をしている。さらに、代表者等は、日々の職員と対話をしていることもあり、職員も話やすく、デジタル血圧計などの備品の購入の要望にも対応したりするほか、年1回職員アンケートを実施して意見を聞くこともできている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	入居時に事業所の相談窓口を紙面で説明	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初のみで、適宜行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	日頃より現場の意見、要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日頃より現場の声、アンケートにより、検討している。			◎	

愛媛県グループホーム優寿の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年1回取り組んでおり、意識統一を図っている。				外部評価の自己評価は、各ユニットで職員の意見を聞きながら作成している。外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告するほか、職員にも報告して目標達成計画を作成し、目標達成に向けて取り組んでいる。以前は、サービスの評価結果を家族に報告することができていたが、現在のコロナ禍において家族に報告することができず、利用者家族等のアンケート結果から、家族に外部評価の取組み状況の理解が得られていないことが窺えるため、今後は簡単に評価結果をまとめたものを送付したり、コロナ禍の収束後には、家族等に取組み状況の確認などのモニターをしてもらったりするなど、理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	事業所の現状を把握し、意識統一を図っている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成に向けて取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告は行っているが、モニターにはお願いして頂いていない。	×	－	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取組の成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	様々なマニュアルを作成し周知できている。				年2回、日中や夜間を想定した避難訓練等を実施している。各種マニュアルのほか、事業所前には河川があり、ハザードマップで水害の対象地域に立地しているため、避難確保計画を作成している。コロナ禍以前は、一度近隣住民等と合同訓練を実施したことがあるほか、近隣にある工場との災害発生時の連携や連絡体制を取ることができている。また、法人・事業所として、地域にある障がい者や高齢者施設等と、「一般社団法人えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、一軒家を借りて毛布などの備蓄品を確保したり、市行政を講師に呼んで研修会を実施したり、相互の避難体制を確保するなど、連携を深めることができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	定期的に訓練を計画して行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	一般社団法人えひめ防災福祉協議会を立ち上げ、防水害等の共同訓練を実施している	○	－	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	ネットワークづくりは行っているが、コロナ禍の為、共同訓練は行えていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	コロナ禍の為、取り組めてはいない。				法人・事業所として、地域住民から相談があった場合には快く対応をしている。また、事業所では、近隣の福祉施設と連携して、「えひめ防災福祉協議会」を立ち上げ、防災等を中心とした協力体制を構築することができている。さらに、市担当者や地域包括支援センター等の会議や研修に参画するなど、スムーズな連携も取れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方、知人からの相談にのり、支援を行っている。		－	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	コロナ禍の為、活躍していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	以前に受け入れに協力した事がある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	コロナ禍の為、活動には参加できていないが、連携は密にとっている			○	